

小さい落差でも豊富な水量を活用し再エネ導入を実現



発電施設（奥）と展示室の外観と
水車（流量が多く低落差に適した水車）



展示室内の旧発
電所の水車等



落差 12 m で発電施設内へ流入

<概要>

- 事業実施主体：別府電化農業協同組合
(鳥取県鳥取市用瀬町)
- 発電設備：小水力発電
発電出力 134kW
発電電力量 94万kWh/年
- 建設費：約256百万円
- 運転開始時期：平成29年1月

<特徴>

- 地域内の農家等（118戸）で構成された協同組合が運営管理しており、発電状況やトラブル発生時は組合員のスマホから確認が可能。
- 十分な水量により、導水路と発電施設の落差が約12mでも、一定の発電量を確保。
- 建設費は、日本政策金融公庫と地方銀行からの借入。
- 売電収入は、管理費や借入返済に充当し、余った収入は農道の整備や町内会の地域活動などに活用。
- 旧発電施設で使用した水車等を歴史的遺産として展示して、次世代へ継承。

※農山漁村活性化再生可能エネルギー総合推進事業（H25・26）において支援